YRJ 通信

YOUTH RAMSAR JAPAN

VOL.7

＜ 2018 年度の活動報告 ＞

○ユースリサーチプロジェクト in 芳ヶ平湿地群

・日時　　2018 年7月２０日（金）～２３日（月）

・会場　　群馬県中之条町芳ヶ平湿地群

群馬県の中之条町と草津町に広がる芳ヶ平湿地群は、標高 2160m の草津白根山の火山活動から大きく影響を受けて形成された高層湿原で、2015 年にラムサール条約に登録されました。芳ヶ平湿地群は、芳ヶ平湿原、大平湿原、大池、水池、平兵衛池、チャツボミゴケ公園などに分けられます。またそれぞれの湿地では多くのコケ類やワタスゲ、リンドウなどの高山植物や東アジア最大級の面積を誇るチャツボミゴケの群落などが見られます。モリアオガエルの最高標高産卵地でもあり、高山特有の生態系が特徴です。

芳ヶ平湿地群をガイドしてもらう

今回のユースリサーチプロジェクトでは、芳ヶ平湿地群の持つ魅力を知るため、芳ヶ平湿地群でガイドを行なっている方に現地を案内していただき、インタビューを行いました。また群馬県庁や中之条町観光協会などにおもむき、自治体が目指すラムサール条約登録湿地の今後についてヒアリングを行いました。

芳ヶ平湿地群で記念撮影

【参加者レポート】

僕が芳ヶ平に来た時、ゴミが少ないなと思いました。役場の方と県庁の方に聞いてみたところ、地域の人がボランティアで清掃活動をしているらしく、外来種の駆除も行っているそうだ。さらにチャツボミゴケ穴地獄に行くまでの道を決まったバスの一台しか移動してはいけないというのも外来種侵入防止と聞き驚いた。環境の保全活動を地域の方が行っていて、素晴らしいと思った。

○ユースリサーチプロジェクト in 春国岱

・日時　　２０１８年8月2日（木）～5日（日）

・会場　　北海道根室市春国岱／春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

北海道の東部、根室半島の付け根にある「春国岱（しゅんくにたい）」は根室湾と風蓮湖の間に横たわる細長い 3 列の砂州の部分で、3000 年～1500 年のときをかけて砂が堆積することよりできたと言われています。砂州には海岸、草原、湿原、森林、干潟など多様な環境が存在しており、それぞれの環境を利用する野鳥たちが生息していることから「野鳥の聖域」とも呼ばれています。風蓮湖まで含めるとこれまでに約 310 種の野鳥が確認されています。多様な湿地環境がありし数多くの野鳥が

春国岱

生息していることから、2005 年に「風蓮湖・春国岱」としてラムサール条約に登録されました。

今回は、2019 年 8 月 4 日～5 日に「春国岱」および「春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター」で開催された「北海道ラムサールネットワーク総会」のプログラムに参加すると共に、総会に参加した道内各地のラムサール条約登録湿地で活動する人たちにインタビューを行いました。

北海道ラムサールネットワークについて取材

【参加者レポート】

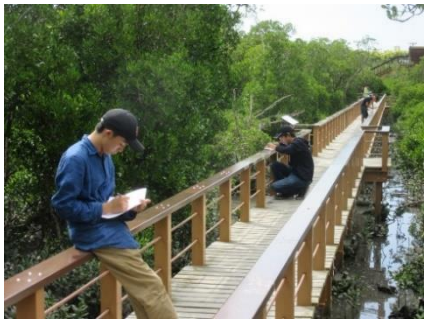
春国岱の魅力は、オオワシやキツネなどの生き物を身近に見ることができることだと思います。私たちが木道を歩いていたとき、堤防のところにオオワシがとまっていたり、私たちのすぐそばの木道をキツネが歩いていたり、普段、会うことのできない生き物たちを見ることができたことが印象に残っています。また、いろいろな環境がひとつところにあるというところも魅力だと思います。右を見れば海や砂浜、草原。左を見ればすぐそばに湿原や森林。というふうに、とてもたくさんの環境を 1 度に見ることができ、とても面白く感じることができました。

○ユースラムサール CEPA ワークショップ in 漫湖・慶良間諸島

・日時　　２０１８年８月２０日（月）～２２日（水）

・会場　　沖縄県那覇市漫湖／漫湖水鳥・湿地センター

ラムサール条約登録湿地「漫湖」がある沖縄県那覇市・豊見城市において実施。予定では「慶良間諸島」の「座間味島」「阿嘉島」（座間味村）へも行く予定でしたが、台風の影響により急遽予定を変更。漫湖付近でのみワークショップを行いました。漫湖は那覇市の中心街から 3ｋｍほどの距離にある「都市の湿地」です。国場川の河口にできた干潟で、水鳥 101 種を含む約 200 種の鳥類が観察されています。今回のワークショップでは「音」をテーマにして、「サウンドマップ」の作成をおこないました。「サウンドマップ」とは、周りから聞こえる音をもとに、自分なりの方法で絵にするワークショップ手法です。


漫湖の木道でサウンドマップ作成

ワークショップ開催にさいしては、漫湖で「音像（音を分析して映像化する）」の研究を行っている沖縄科学技術大学院大学（OIST）のニコラス・フリードマン博士に協力いただき、音像についての資料を提供していただきました。漫湖水鳥・湿地センターの木道や漫湖近くの公園、木道、マングローブ林の中にあるのチーヤ（岩でできた小高い丘）など場所を変えて聞こえる音の違いに注目しました。高さや場所によって、聞こえる動物の音や車の音に違いがあることがわかりました。

チーヤでサウンドマップ作成

【参加者レポート】

3 日間を通して、様々な場所で漫湖の音を聞いてサウンドマップを作って、音に焦点を当てることで新しい発見をすることができました。同じ漫湖に面しているところでも、木道、マングローブ林、公園で聞く音はどれも同じではないということを知ることができました。また、意識して聞くことで、集中していないと 聞こえてこないような風の音や、生き物が活動している音がたくさん聞こえてきたのが面白かったです。

○ユースリサーチプロジェクト in 世界湖沼会議

・日時　　２０１８年１０月１２日（金）～１９日（金）
・会場　　茨城県つくば市つくば国際会議場／霞ケ浦

2018 年 10 月 15 日～ 19 日、茨城県つくば市で第 17 回世界湖沼会議が開催されました。世界湖沼会議は研究者、行政担当者、NGO 等が一堂に集まり、世界の湖沼及び湖沼流域で起こっている多種多様な環境問題やそれらの解決に向けた取り組みについての議論や意見交換の場となっています。YRJ 代表の佐藤琢磨が分科会で取組発表をしました。発表は、第 8 分科会「市民活動と環境学習」の第 7 セクション「教育プログラムと 実践 2」で行い、YRJ の活動紹介と、昨年のアジア湿地シンポジウムで、YRJ が開催した「ユースセッション」について発表しました。発表に対して、座長を担当した滋賀大学の川嶋宗継先生からも評価の声をいただきました。また、世界湖沼会議が始まる前日の 14 日には「学生会議」が行われ、YRJ 会員である劇団シンデレラのメンバーが活動についての発表を行うと共に、ディスカッションにも参加しました。

分科会での発表の様子

学生会議の様子

17 日にはエクスカーションによるフィールドツアーがあり、霞ヶ浦で実施されている、湖岸植生を回復するための「自然再生事業」の様子や、下水処理施設、浄水施設などを見学しました。かつては遊泳場があり、泳ぐことができたほどきれいだったという霞ヶ浦。そのかつての湖水環境を少しでも取り戻そうと努力をおこなっていることをうかがうことができました。

○ラムサール条約締約国会議 COP13 への参加

・日時　　２０１８年１０月２１日（日）～２９日（月）
・会場　　アラブ首長国連邦ドバイ

2018 年 10 月 21～29 日、アラブ首長国連邦のドバイにおいて「第 13 回ラムサール条約締約国会議（Ramsar-COP13）」が開催されました。今回のテーマは「Wetlands for a Sustainable Urban future（持続可能な都市の未来のための湿地）」でした。締約国の政府代表、国際機関、NGO などが参加し、湿地の賢明な利用、様々な課題にかかわる経験や知識の共有、各国での湿地保全やラムサール条約の今後の計画について議論がなされました。また締約国による決議がおこなわれる本会議のほかに締約国、NGO などが主催する 70 以上のサイドイベントがおこなわれました。YRJ からは COP13 に 3 名が参加し、各国からの参加者に向け YRJ の活動を紹介するブース展示を行いました。また COP13 が行われるにあたり、アジア湿地シンポジウム 2017 で開催した「湿地とユース」セッションの成果を受けて、国際的なユースグループ「Youth Engagement Themathic Group （YETG）」にユースラムサールジャパン代表が参加しました。YETG では COP13 においてサイドイベント「Youth Engaged in Wetland!」（World Wetland Network 主催）が開催され、日本からの事例発表としてユースラムサールジャパンの活動とアジア湿地シンポジウム 2017 の成果報告をおこないました。このサイドイベントは、COP において初めてのユースによるサイドイベントでした。さらに、ユース同士「Youth Visioning Workshop」をおこない、今後のユースの働きやビジョンについて議論を行

YETG のメンバーと記念撮影

活動発表の様子

いました。その議論を通して Youth Statement（仮和訳を同封）を作成し、COP13 の閉会式において各国の政府代表に向けて発表を行いました。さらに、ステートメント作成にかかわったメンバーを中心に「Youth Engaged in Wetland!」（YEW）というグループで 2019 年度以降も活動を続けることになりました。引き続き YRJ も協力していく予定です。

【参加者レポート】

ユースラムサールでブースを出させていただいて、いろんな方に私たちの団体を紹介することができました。そして日本人、外国人問わず多くの方が関心をもってくださり質問などをしてくださいました。中には自分たちに何分も話してくださる人もいらっしゃいました。そういった中で少なからずユース世代への期待というものが感じることができました。

○ユースラムサール CEPA ワークショップ in 志津川

・日時　　２０１９年２月８日（金）～１１日（月）

・会場　　宮城県南三陸町平成の森／志津川湾

第 9 回ユースラムサール CEPA ワークショップを 2019 年 2 月 8 日～11 日の日程で、2018 年 10 月に新しくラムサール条約登録湿地となった宮城県南三陸町の志津川湾で開催しました。志津川湾は暖流の黒潮と寒流の親潮がぶつかる場所に位置し、180 種を超える海藻類が生息しており、古くよりカキ・ノリ・ワカメなどの養殖がおこなわれています。今回は志津川湾のラムサール条約登録を記念して開催される「KODOMO ラムサール in 南三陸町」（南三陸町 KODOMO ラムサール実行委員会主催）と同時開催しました。ユースラムサールジャパンとして KODOMO ラムサールのスタッフを担ったのは、2017 年の鶴居村以来となりました。2 月 8 日は志津川湾ラムサール条約登録記念祝賀会がおこなわれ、KODOMO ラムサールは 9 日から 2 泊 3 日でスタートしました。ユースは班付きスタッフやその補助につき、プログラム運営のサポートをおこないました。志津川湾へ行き、海藻をとってきておしばをつくったり、海と森のつながりを知るために林業を体験したりしました。また実際に漁船に乗り、カキやワカメの養殖現場を見学しました。ユースは子どもたちと年が近いため、すぐに距離を縮めることができ、年の近い「あこがれのお兄さん、お姉さん」という役割があることがあらためてわかりました。

志津川湾

小学生参加者をフォローする
YRJ メンバー

【参加者レポート】

スタッフとして参加すると子どもに目を向けすぎて素直に湿地を楽しめなかった。聞いてみたかったことや、もっと見たかった資料をじっくり見られなかったのは少し残念。でもいろいろな湿地から来た子供たちとコミュニケーションをとるのはとても楽しかった。三日間大変だったけどまた参加したいと思った。

南三陸町に来てみて、志津川湾はまだラムサール登録されてからまだ日が浅いのに自然を守ろうとする人が多く、その中に子供もたくさんいて驚いた。体験をさせてくれるどこの人も積極的に魅力を伝えようとしてくださったし、その熱意から志津川湾の自然が好きなのだと伝わった。三つの海流が重なり様々な種類の海藻が生息し、世界的にも貴重なコクガンも渡ってくる南三陸町の自然とこの自然を守る人にまた会いに行きたい。

○ユースリサーチプロジェクト in 蕪栗沼・周辺水田、化女沼、伊豆沼

・日時　　２０１９年2月9日（土）～１０日（日）

・会場　　宮城県大崎市蕪栗沼・周辺水田、化女沼／登米市伊豆沼

伊豆沼取材中の様子

2019 年 2 月 9 日、10 日の日程で「第 14 回ユースリサーチプロジェクト」を宮城県の湖沼のラムサール条約登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」「化女沼」「伊豆沼」の 3 ケ所で実施しました。この 3 ケ所のラムサール条約登録湿地は、いずれも 15 ㎞以内の近い場所にあり、マガンや亜種ヒシクイなど、渡り鳥たちの重要な越冬地となっています。特にマガンはこのエリアに毎年 7 万羽以上が渡ってきており、世界的にも重要な越冬地となっています。今回は、この 3 ケ所のラムサール条約登録湿地を「特定非営利活動法人蕪栗ぬまっこくらぶ」の高橋のぞみさんに案内していただきました。これまで「ユースリサーチプロジェクト」を蕪栗沼・周辺水田でおこなったことはありましたが、同じ県内にある 3 つのラムサール条約登録湿地を見てまわることで、それぞれの環境の違いやネットワークの重要性をあらためて感じることができました。

ユースラムサールジャパン　２０１９年度　活動予定

月	日（期間）	場　　所	内　　容	備　　考
4 月	19 日（金）～ 21 日（日）	久米島（沖縄県）	ユースリサーチプロジェクト in 久米島	サウンドマップを実施
6 月	24 日（月）～ 29 日（土）	スイス・グラン	ラムサール条約締約国常任理事国会議 YEW 会議	佐藤琢磨と田辺篤志が参加
9 月	14 日（土）	名古屋市（愛知県）	環境デーなごや ブース出展 ユース・ミーティング（総会）	
10 月	12 日（土）～ 14 日（月）	藤前干潟（名古屋市）	KODOMO湿地交流会 in 藤前干潟	
12 月	未定	東京（予定）	YEW 会議	COP14 に向けての決議草案作成準備
2 月	未定	葛西海浜公園 （東京都）	KODOMO ラムサールのサポート	
3 月	未定（下旬）	名古屋市（愛知県）	ユース・ミーティング （2019 年度の活動総括）	

☆ サポートありがとうございます！ ☆

〇会員の皆さま
2019 年度も引き続き、会員継続をお願いします。年会費は 2,000 円となります。

〇サポーターの皆さま
2018 年度は以下の皆さまからサポートをいただきました。
後藤幸子　劇団シンデレラ　ダグラスＳジャレル　賀数弘　（順不同・敬称略）
2019 年度も、引き続きのご支援ほど、よろしくお願いいたします。

〇会費、サポーター費共に、同封の郵便振込用紙にてお振り込みください。

YRJ 通信　VOL. 7　発行 ： 2019年7月8日

ユースラムサールジャパン
事務局　〒453-0855 名古屋市中村区烏森町 8-709 ラポール烏森 A-203
TEL／FAX　052－446－8489
E-mail　youth.ramsar.japan2015@gmail.com
URL　http://youth-ramsar-japan.jimdo.com/
Facebook　http://www.facebook.com/youthramsarjapan
郵便振替 ： 12120－8020247　ユースラムサールジャパン
☆会員、サポーターを随時、募集しております！詳しくは上記までお問い合わせください。

2018 年度のユースラムサールジャパンの活動は
「地球環境基金」
の助成により実施しました。